

III 開発教育指導者研修（実践編）第2回

■ 開催概要

- ◆ 日 時：2015年7月11日（土）13:00～17:15、12（日）10:00～15:00
- ◆ 場 所：JICA 中部 なごや地球ひろば2階 セミナールームA
- ◆ 参加者数：[1日目] 受講者42名、JICA6名、NIED6名、オブザーバー1名、合計55名
[2日目] 受講者42名、JICA9名、NIED6名、オブザーバー1名、合計58名
- ◆ ファシリテーター：（特活）N I E D・国際理解教育センター 伊沢令子氏

■ 第2回のねらい

★開発教育・国際理解教育は、人権、環境、平和など今日的課題に着目する教育であることを理解する。

- ① グローバリシューを自分事として捉え、具体的な行動につなぐための「学び方」を学ぶ。
- ② 「参加型の学び」は、自分、他者、社会に関わる力を育てる機会となることを体験的に確認する。
- ③ 持続可能な社会づくりに役立つ価値観、育てたい力、必要な情報についてふりかえる。

■ プログラムの内容

● セッション1 「アイスブレイキングと第1回ふりかえり」 7/11 13:00-13:51

1. 主催者あいさつ／スタッフ紹介など 13:00-[5]

- ◇ JICA 中部 木村職員が開会を宣言し、第2回から参加のJICA中部スタッフおよび、第2回にオブザーブ参加するJICA北海道(札幌)の国際協力推進員の紹介を行った。

2. 第2回のねらいの確認 13:05-[5]

- ◇ 第1回のねらいをふりかえり、第2回のねらいをと進め方についてファシリテーターが説明し、確認した。

3. アイスブレイキング～自己紹介 13:10-[7]

- ◇ グループ内で「私は何をしている人か」「私の好きなお菓子とその理由」という2つのお題で自己紹介を行った。



4. 第1回ふりかえり 13:17-[34]

- ◇ 第1回研修の記録を各自読み、印象に残ったところに下線を引いた。
- ◇ 印象に残ったところとその理由について、グループ内で伝え合った（1人1分30秒間）。
- ◇ ファシリテーターコメント…繰り返しふりかえったり他の人に伝えたりすることによって、自分の中で大事に思ったことが意識化されていく。「聞いたことは忘れる、見たことは覚えている、体験したことは分かるし使える」という中国の諺もある。自分が体験したからこそ分かることがあり、記録からも思い出しやすい。家に帰っても覚えていることが「学べたこと」。学びを定着させるために、ふりかえりを積み重ねていく。
- ◇ 第1回の体験を通して、開発教育の目的を確認した。

<開発教育の目的>

未来へのビジョンを描き、人類共有の課題について理解し、課題を解決しながらよりよい未来を共に築く力を育む教育。しかし、課題を解決しただけではビジョンを達成できるとは限らない。積極的に行動で表す人を増やすために、「気づき」「考え」「動く」をつなぎ、かつ「分かる」を「できる」につなぎ、実際に関わる人を増やしていく。

● セッション2 「他人事を自分事に① チョコッと世界をのぞいてみよう」 7/11 13:51-17:15

1. チョコッとカルタをやってみよう 13:51-[13]

◇ 教材「チョコッとカルタ」より抜粋した 25 項目のカルタをグループに 1 セット配付。ファシリテーターが読み札を読み、グループ内で絵札を取った。取った人は絵札の裏に書かれている説明を読み上げ、内容を共有した。

<カルタ項目>

01 植民地/02 レアメタル/03 ゴム/04 中古自転車/05 ゲイシャ缶/06 経済成長/07 オクラ/08 異常気象/09 カカオ豆/10 新興国の需要/11 ナタ/12 発酵/13 認証マーク/14 組合/15 持続可能性/16 商社/17 出荷/18 農家/19 子どもの権利/20 水くみ/21 給食/22 医療/23 NGO/24 識字率/25 出稼ぎ



◇ 「チョコッとカルタ」45 項目一覧表を配付。カルタを通してアフリカの文化や歴史、チョコレートやカカオの知識を学んだ。

2. カカオ生産地の暮らしをのぞいてみよう 14:04-[6]

◇ 教材「フォトランゲージ」より、カカオの収穫から出荷までの工程、カカオ生産における子どもの児童労働の現状について、写真と文章で確認した。

◇ ファシリテーターが、以下の板書を基に、「児童労働」と「子どもの仕事の違い」を説明した。

<p><児童労働></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育を妨げる …例えば、学校に通えない（特に義務教育） ・健康的な発達を妨げる …例えば、長時間同じ姿勢での作業 ・有害危険なものである …例えば、農薬や危険な機械を使う作業 ・搾取的なものである …例えば、買春・ポルノ、子ども兵士など 	<p><子どもの仕事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育を受けることができる ・子どもの年齢、成長に合っている。 ・健康的な成長を助け、責任感や技術を身につけることができる。
--	--

3. アフリカ、カカオ、チョコレート 私たちとのつながりを知ろう 14:10-[38]

◇ グループに以下 6 種類の資料を配付。1 人 1 種類を担当し、「分かったこと」「もっと知りたくなったこと」「問題に感じること」という視点で読み、ポイントとなることをグループ内で発表した。



- ① アフリカってどんなところ？日本とのつながりを知ろう！
- ② ガーナってどんな国？日本とのつながりを知ろう！
- ③ カカオとチョコレートについて知ろう！
- ④ カカオ生産地で働く子どもについて知ろう！
- ⑤ 世界の児童労働について知ろう！
- ⑥ カカオの世界事情を知ろう！

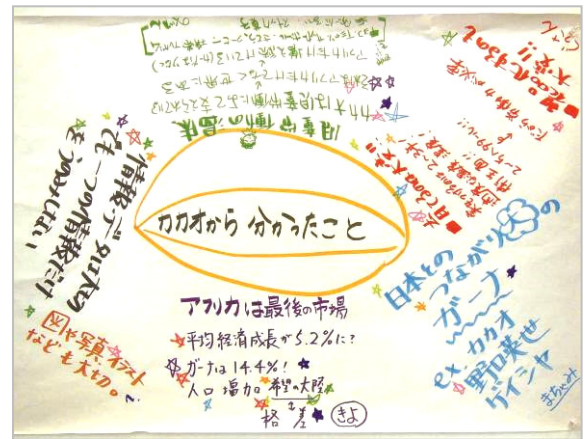
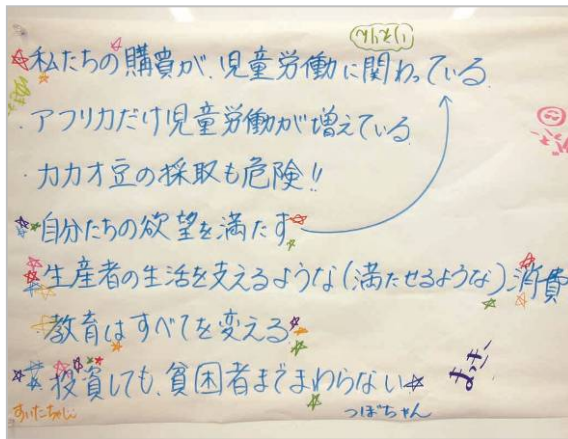
◇ グループで共有してみて分かったこと、言えることを模造紙に書き出した。

◇ 模造紙を読み回し、他のグループの気づきを共有した。同時に、共感したことに☆印、疑問に思ったこと・知りたくなったことに？印をつけた。

◇ 全体で？印について、その意図を共有した。

◇ ファシリテーターコメント…日本にきているチョコレートの 8 割がガーナからのカカオである。私たちが当たり前で食べているチョコレートだが、手元に届く工程や実は発酵食品であることなど、知らないことも多い。

【 アフリカ、カカオ、チョコレート私たちとのつながりについて分かったことの成果例 】



4. 課題が解決されないとどうなるか？ 14:48-[14]

- ◇ 各自担当した資料について、課題だと思ったことの中から一つ選び、それが解決されなかったらどうなるか、その問題が解決されなかったことによる影響「誰に?」「どんな?」を個人で派生図を書いて考えた。
- ◇ 一人ずつプレゼンし、グループ内で共有した。(1人1分間)



- 休憩 - 15:02-[10]

5. グループ替えと自己紹介 15:12-[7]

- ◇ ファシリテーターが1~8までの番号を振り、同じ番号の人同士でグループになり、指定のテーブルに着席した。
- ◇ グループ内で「自分を季節に例えると、またその理由」というお題で自己紹介を行った。

6. 世界の子どもの9人に1人が働かされている 児童労働について考えよう 15:19-[22]

- ◇ JICA 地球ひろば『国際理解教育実践資料集-世界を知ろう!考えよう!』の貧困の連鎖カードを、「子どもが親の手伝いをしなければいけない」カードを起点にして次に何が起るかをグループで考え、輪になるようにつなげて並べた。
- ◇ そのうえで、児童労働が社会にどのような影響を及ぼしているか、また、それによってどのような負の連鎖を生むのかをグループで話し合った。
- ◇ カード並べの結果を全体で発表、共有した。



【 負の悪循環カード並べの発表例 】

子どもが親の手伝いをしなければいけない→学校に行く時間がない→学校に行けない→読み書きができない→働くための技術や能力が身につかない→収入の安定した仕事につけない→収入が少ない→食料が買えない→十分な栄養が摂れない→病気になりやすい→仕事ができない→自分の子どもも学校に行けない→子どもが親の手伝いをしなければいけない

- ◇ ファシリテーターコメント…子どもが貧困から抜け出せないだけでなく、その子どももまた貧困状態となる「貧困の再生産」が起こる。一旦貧困に陥ると、他者の支援や法整備など、外からの力がないと抜け出すのが難しいと言われている。
- ◇ 貧困の連鎖から脱するために役立つこと、必要なものを、グループ内で意見を出し合い考えた。
- ◇ 考えたアイデアのうち、各グループ2つずつを全体に発表した

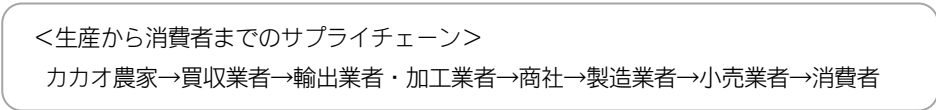
【 貧困の連鎖から脱するために役立つこと・必要なもの 】

- ◇ 義務教育を義務化 ◇ 学校を近くに作る ◇ 教育の場を増やすために教育者を増やす
- ◇ 昼間学校に行けなかったときは夜間学校を開く ◇ 教育に対する大人の意識改革
- ◇ 学校に行くと給食を食べられるようにする
- ◇ 安定した仕事に就けるよう、働きながら技術を身につけられるようなシステムやサポート
- ◇ 家族単位での仕事→組合など組織化して安定した収入に ◇ 適正な価格で高い収入につなげる
- ◇ 地場産業の発展、地元の物を商品化して収入増 ◇ 仕事を簡単にするために機械化
- ◇ 単位面積あたりの農業生産量 UP ◇ 道路などインフラ整備 ◇ 水汲みが大変→井戸を掘る
- ◇ インフラのメンテナンス技術を教える・技術を育てる

7. 課題を解決するために カカオ・チョコレートに関わる人の声を聞こう 15:41-[51] -----

7-1. チョコレートが届くまで

- ◇ グループでカカオの生産から消費者が食べるまでのサプライチェーンを考えた。



- ◇ ファシリテーターコメント…生産から消費までの地理的距離が遠ければ遠いほどコストがかかっている。また、使用エネルギーも多く、環境負荷もかかっている。

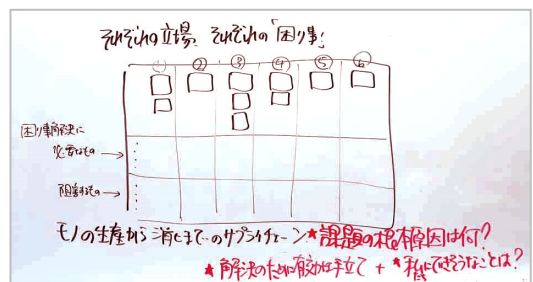
7-2. それぞれの立場から考える私たちの課題

- ◇ 教材「ロールプレイ役割カード（シーン1）」を1人1枚担当して個人で読み、課題だと思ふことを付箋に書き出した。

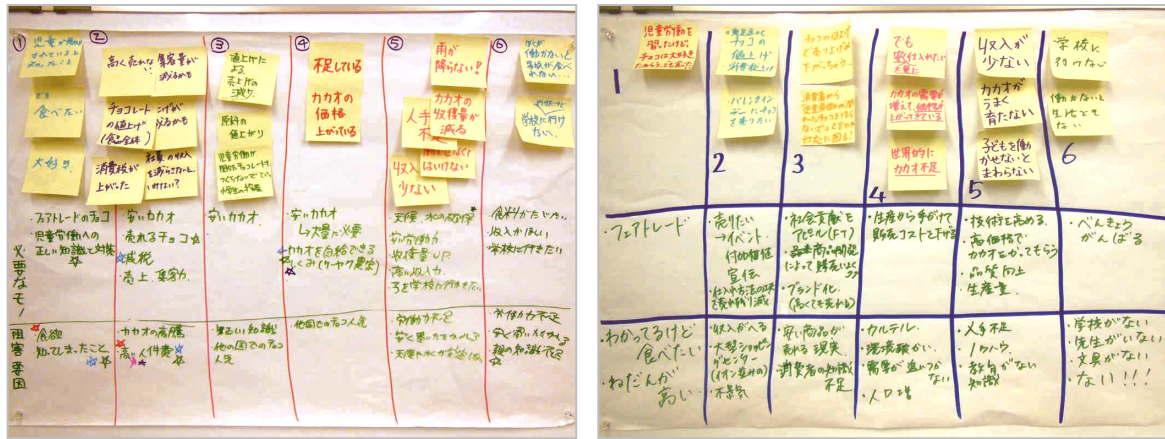
<役割カード概要>

- ① ななみさん（16歳・女性・日本の高校生）…チョコレート大好き。授業で児童労働を習ったが、おいしいからやっぱり食べたい。期間限定のチョコをよく買う。
- ② 平井さん（37歳・男性・スーパーマーケットの店長）…消費税UPに伴い商品が値上がりしている。バレンタインデーにチョコが売れるよう工夫しなければ。
- ③ 町田さん（31歳・女性・チョコレートメーカーの社員）…カカオも他の原料の値段が上がっているため、チョコの値上げを検討中。小学生から「児童労働に関わったチョコを作らないで」という手紙が届き、対応に困っている。
- ④ 佐々木さん（43歳・男性・商社勤務）…カカオの価格が値上がりして困っている。インドや中国の経済成長によってチョコの需要が増し、世界的なカカオ不足が原因。安く大量に仕入れたい商社には厳しい状況。
- ⑤ コジョさん（50歳・男性・ガーナカカオ農家）…この頃雨が減ってカカオがうまく育たないうえに、人手も足りず思うように収穫が伸びない。子どもを働かせたくはないが仕方がない。どうすれば収入が少くない苦しい生活から抜け出せるだろうか。
- ⑥ クワシくん（8歳・男の子・カカオ農園で働く）…僕も働かないと、家族がご飯が食べられない。学校には行っていない。学校に行っている子がうらやましい。僕も学校に行ってみたい。

- ◇ 各自担当の役割カードを読み上げ、書き出した課題を模造紙に役割ごとに分けて貼っていった。
- ◇ 当事者になったつもりで考え、課題解決に必要なことと課題解決を阻害する要因を模造紙に書き出した。
- ◇ 模造紙を回し読み、他のグループの意見を共有した。



【課題解決に必要なことと課題解決を阻害する要因の成果例】



◇ 教材「モノが作られ届けられるまでのプロセスと消費者」を各自で読み、生産から消費までのサプライチェーンの中で、①課題の根本原因、②解決のための有効な手立て、③私たちにできそうなことの3点をグループで話し合った。

8. グループ替えと自己紹介 16:32-[7]

- ◇ グループ内でジャンケンをし、勝った人が移動してグループ替えを行った。
- ◇ グループ内で「座右の銘」または「好きな言葉」というお題で自己紹介を行った。
- ◇ ファシリテーターコメント…好きな言葉を聞くと元気が出て場が活性化される。自由で楽しい雰囲気とは肯定的な雰囲気。発言しても大丈夫、受け入れてもらえるという安心感のある場。楽しく学ぶ場を作るのが参加型を成功させるコツの1つ。

9. 児童労働を解決するための方法 16:39-[33]

9-1. 課題を解決する1つの方法「フェアトレード」

◇ フェアトレードの概要をファシリテーターが説明した。

<フェアトレードとは>
 生産者の文化、人権、環境を守り、公正な価格で取引をする貿易。自分たちが何を消費するかを選ぶことが、生産者の生活を変える直接的な行動と言える。

- ◇ 特定非営利活動法人フェアトレード・ラベル・ジャパン資料『フェアトレードについて』を各自で読んだ。
- ◇ 教材「役割カード（シーン2）」を1人1枚担当し、役割になりきってセリフを読み合せた。

<役割カード概要>

- ① ななみさん…学校でフェアトレードチョコのことを初めて知った。買っていいと思うが、どこで買えるか分からない。近所のスーパーやコンビニにあったら買うのに。
- ② 平井さん…「フェアトレード商品を置いてほしい」という問い合わせがある。値段が高めなので売れるかどうか心配。大量に仕入れるため売れないと困る。多くのお客さんが買ってこれれば別だが。
- ③ 町田さん…ここ数年で消費者から「フェアトレード商品を作ってほしい」との声。導入したいが費用がかかり値段も高くなる。値段が少しでも上がると売れるとは限らないため不安。値段に見合うおいしさにできたらいいが。
- ④ 佐々木さん…輸入カカオに児童労働が関わっていないかという問い合わせが増えている。現地の業者も把握しておらず回答が難しい。メーカーがフェアトレードのカカオを高くても買ってくれるか不安。
- ⑤ コジョさん…フェアトレード参加組合で生産技術を学んだので農園でのカカオ収穫量が増えた。組合への出荷にはルールがあるが、高く買ってくれるから頑張る。しかし農業は儲からないため、この先息子たちが後を継いでくれるか不安。
- ⑥ クワシくん…お父さんが働いている農園で技術指導が行われるようになって収穫量が上がり、僕も学校へ行けるようになった。学校も新しくなった。将来はカカオ農家で働くよりもエンジニアになりたい。

- ◇ フェアトレードを広げるための手立てをグループで考え、そのうち一押しアイデア一つを全体へ発表した。

【フェアトレードを広めるための手立て 発表内容】

- ◇ アンケートの副賞、プレゼントとしてフェアトレード商品を選ぶ
- ◇ フェアトレードの説明が難しくて入りにくく、値段が高いイメージにつながっている
→「環境にいい」「人権にもいい」などもっと柔らかい説明の仕方がよい
- ◇ アイドルや有名人がフェアトレード商品をアピールしブームを作り、ブームから文化にする作戦
- ◇ 成功事例としてフェアトレードが進んでいる国の取り組みを流す
- ◇ 生産者の顔写真や現状写真をパッケージに載せ、買う人に効力感を出させる
- ◇ スーパーでフェアトレードコーナを作り知識も伝わる場にする
- ◇ チョコが大好きな子どもたちや女の子のためにゆるキャラを作る
「フェアトレードマンとアンフェアトレードマンの対決」
- ◇ 高級チョコレート店でフェアトレードチョコを扱いブランド化

- ◇ ファシリテーターコメント…世界の貿易の20%がフェアトレードになれば、貧困を解決できると言われるている。

10. 児童労働を解決するための9つの方法

- ◇ 教材「カカオ産業の児童労働をなくすための9つの方法」から、一番有効だと思うものを1つ選び、理由と共にグループ内で発表した。

<9つの方法>

- A：図書館やインターネットなどで児童労働について調べたり勉強したり知識をつける
- B：児童労働をなくすために活動している団体の講演会やイベントに参加する
- C：児童労働をなくすために活動している団体を支援する（募金・ボランティアをする）
- D：普通のチョコより高くても、児童労働で作られていないフェアトレードのチョコを買う
- E：児童労働によって作られていないフェアトレードのチョコを作って欲しいと企業に手紙を送る。
- F：日本政府にもっと児童労働の問題に取り組んで欲しいと署名を集め、その声を日本政府に届ける。
- G：新聞やテレビなどを通して児童労働の問題を多くの人に訴えかける
- H：カカオ産業の児童労働について、身近にいる人たちと話す
- I：(自分自身のアイデアを考える)

11. 事務連絡 17:12-[3]

- ◇ 事務局より、メーリングリストが届いているかどうか、宿泊について、教師海外研修受講者へ研修室使用可能時間の連絡をした。
- ◇ JICA 中部 木村職員より、教材『国際理解教育実践資料集』と、なごや地球ひろば企画展連動イベント「世界のスイーツから考える」を紹介した。

★ 17:15 終了

● セッション3 「他人事を自分事に② 日本と世界の水事情 水から広がる学び」 7/12 10:00-14:13

1. あいさつ 10:00-[1]

◇ JICA 中部 木村職員が、2日目開始にあたっての挨拶を行った。

2. 1日目のふりかえりと第2回のねらいの確認 10:01-[6]

◇ ファシリテーターより、1日目の内容のふりかえりと第2回のねらいの確認を行った。

◇ ファシリテーターコメント…課題が他人事のうち、人は動かない。いかに自分事にひきつけて考えられるかが大切。他人事を自分事として捉えられるようにするために、「知り、考え、気づく」「気づき、考え、動く」、すなわち「わかる」を「できる」にするような教育的な手立てが必要である。課題のある社会を認識し、人権・環境・平和が守られるよりよい未来のビジョンを描くこと、課題解決およびビジョン達成に向けた行動に関わる人を増やすこと、そのために「知識」「気づき」「スキル」を身につけることが開発教育・国際理解教育の要である。今日は、水をテーマにこの一連の教育的な手立てを含んだプログラムを提供する。

3. グループ替えと自己紹介 10:07-[5]

◇ 会場を立ち歩き、参加者同士で属性等を紹介し合い、多様なメンバーになるようにグループを作った。

◇ グループ内で「自分の人生で実現したいこと」というお題で自己紹介を行った。

4. 2日目のプログラム確認 10:12-[2]

◇ レジュメにて2日目のプログラムの流れを確認した。

◇ ファシリテーターコメント…参加型プログラムの特徴は、起承転結のストーリー（流れ）があること。思考と気づき・学びを積み重ねる形でプログラムはできている。

5. 地球上の水の割合 10:14-[13]

◇ 地球上において水がある場所を考え、グループでA4用紙に書き出した。その後全体で発表した。

【水はどこにあるか】

海 池 川 湖 氷河 田んぼ 井戸 地下 ダム 雲 大気中 生き物（動植物・木の中）
野原 砂漠のオアシス 山 雨 水蒸気 雪 洞窟 温泉 泉 岩と岩の間 食べ物 氷 北極・南極
人間の身体 ペットボトル バーチャルウォーター 水道

◇ 書き出したもののうち、淡水に○をつけ、水の総量が多いと思うものTOP3を選んだ。

◇ 教材「地球上の水の割合」を確認し、感想を共有した。

◇ ファシリテーターコメント…人が利用可能な水は地球上の0.01%であり、とても貴重。この先、持続可能な水利用、公平な水の分配をしていかなければ、私たちは10年20年以内に水争いに直面すると言われている。

6. めぐる水 10:27-[31]

◇ 地球上の水の循環を考え、A4用紙に書き出した。

◇ 教材「水循環のイラスト」の内容をグループ内で確認した。

◇ 水循環のイラストを模造紙の中央に置き、水の循環を阻害する原因となること（水循環のバランスを崩すもの、水を汚染するもの等）をその周りに書き出した。

◇ グループとして気づいたこと3つ、模造紙の空いているスペースに書き加えた。

◇ メッセンジャー方式で3グループ分のアイデアを共有した。



<メッセンジャー方式>

① グループの中から1人をプレゼンターに決める。

② プレゼンターは自分のグループの模造紙を持って一つずつ隣に移動し、受け入れグループメンバーに内容を伝える。受け入れグループメンバーは、自分のグループのプレゼンターが戻ってきたときに共有できるよう、プレゼン内容を覚えておく。

③ プレゼンターに対して受け入れグループメンバーが、自分たちの話し合いの内容を伝える。

④ プレゼンターが自分のグループに戻り、残っていたメンバーから他グループのプレゼン内容を聞く。

⑤ プレゼンターが聞いた受け入れグループの内容をメンバーに伝え、共有する。

7. グループ替えと自己紹介 10:58-[3]

- ◇ ジャンケンをし、勝った人2人と負けた人2人が移動しグループ替えを行った。
- ◇ グループ内で「好きな飲み物とその理由」というお題で自己紹介を行った。

8. 暮らしの中の水 11:01-[9]

- ◇ 教材「1日の水利用量シート」に、普段使っている水の量を各自で書き出した。
- ◇ 利用量の合計をグループ内で伝え合った。

9. タムリさんの一日 ～フォトランゲージ 11:10-[20]

- ◇ エチオピアのタムリさん13歳少女の様子写真カード10枚を配付。それぞれ何をしているところの写真を考え、朝から夜までの時系列で写真を並べ替えた。
- ◇ 教材「タムリさんの一日」をみて、順序や内容を確認した。
- ◇ 教材から「エチオピアと日本の水へのアクセスデータ」を説明した。



	日本	エチオピア
改善された水資源にアクセスできる人口割合 (2000~2006年)	100%	42%
改善された公衆衛生にアクセスできる人口割合 (2000~2006年)	100%	11%
生活用水利用量 (2000年~2005年) ※家庭用水の他に、病院・学校・飲食店・事業所含む	136,000L/人・年	5,000L/人・年

<家庭用水の使用目的別割合> (2006年東京都水道局)

合計 254L…内訳：トイレ 68.5L/風呂 59L/炊事 56.5L/洗濯 41.5L/その他 19.5L

- ◇ もしタムリさんが衛生的な水にアクセスできたとしたら、1日の生活がどのように変わるかを考え、A4用紙に書き出した。

【もしタムリさんが衛生的な水にアクセスできたとしたら成果例】

- ◇ 時間が確保できるようになるため、勉強などができる
- ◇ 腰に優しい
- ◇ 生活が向上する
- ◇ 水くみ場への道中に危険があるかも、安全が確保できる
- ◇ お年寄りに優しい
- ◇ 作物が増え食生活が豊かになる
- ◇ 牛がもっと飼える
- ◇ 水くみ場での交流がなくなる

- ◇ ファシリテーターコメント…国連から、人間が健康的に生活するために必要な水は50Lと発表されている。

10. 世界の水利用量 (ミニレクチャー) 11:30-[10]

- ◇ 教材「世界の水利用」にて、世界でどのように水が使われているかを確認した。
- ◇ ファシリテーターコメント…現在、途上国で1日に10Lしか水が使えないことは、基本的人権を侵している状況といえるのではないかと。また、国連の世界水アセスメント計画(WWAP)によると、2030年には、途上国での水道の普及等安全な水へのアクセス、先進国の工業発展と農業推進などにより、現在よりも2倍の水が必要となり、需要量に対して40%の水が不足するとされている。
- ◇ 午前中の感想をグループ内で共有した。

- 休憩 - 11:40-[60]

11. グループ替えと自己紹介 12:42-[13]

- ◇ ファシリテーターが1~7までの番号を振り、同じ番号の人同士でグループになり、7人グループを7つという構成とし、机の配置換えも行った。
- ◇ グループ内で「もしもタイムマシンがあったら、またその理由」というお題で自己紹介を行った。

12. 世界の水事情 ~水問題の原因、影響、解決の手立て~ 12:55-[78]

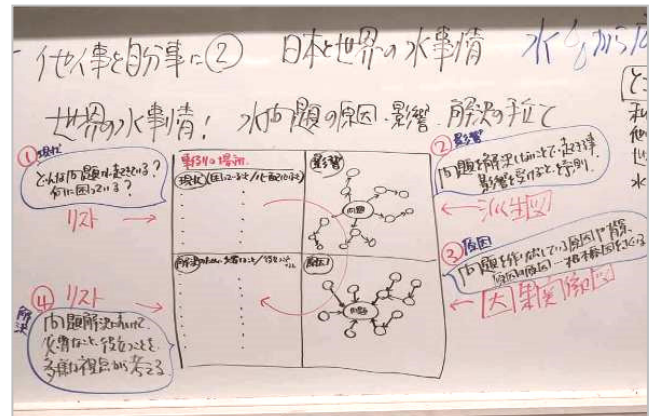
- ◇ 教材「世界の水事情に関する写真」をグループごとに異なる1枚の配付し、それぞれどこの国のどんな写真なのかを考えた。
- ◇ 各グループで、教材「世界の水事情に関する写真の解説」と「関係者の説明」を読み、世界で起きている水事情を確認した。

<世界の水事情に関する写真解説および関係者>

- ① 日本～森を守り、水を育む …森林の役割/増える荒廃森林/森林を適切に管理するために [日本の山梨県に住む松川さん (役所の森林管理課)]
- ② カンボジア～メコン河のダム開発 …魚に支えられる暮らしとダムの影響/メコン河ダム開発の歴史/終わらなかった大型ダムの時代/社会的弱者に向かうダム開発 [カンボジアのラタナキリ州に住むドゥー・ウイトさん (農業・漁業)]
- ③ バングラデシュ～ガンジス川流域の砒素汚染 …砒素汚染の実態/安全な水で暮らしていくためには/水資源の保全のための国境を越えた取り組みも必要 [バングラデシュのダッカに住むサニーさん (NGOスタッフ)]
- ④ バングラデシュ～洪水や大型台風の影響による途上国の被害 …異常気象と地球温暖化/洪水や大型台風の被害の拡大/より大きな影響を受ける途上国/主要因は先進国、世界での排出削減努力が求められている [バングラデシュのバリサル県に住むフォリダさん]
- ⑤ アラル海～灌漑による砂漠化・塩害 …偉大なアラル海/農地開拓によるアラル海の水循環破壊/塩害が農業や人々の健康を脅かす/再生への取り組み-堤防建設や植林事業 [ウズベキスタンの首都多摩種県都に住むムハンマドさん]
- ⑥ アフリカ～安全な水へのアクセス …水への「アクセス」とは/命に関わる水の問題/女性・子どもへの影響/貧困の連鎖 [エチオピアのジンマに住むタムリさん (13歳女の子)]
- ⑦ メキシコシティ～都市化による水問題 …メキシコの水事情/急激な都市化/水問題の博物館/地下水が危ない、地面も危ない/水をめぐる対立 [メキシコシティに住むメリダさん (高校生)]

◇ 次のA→Dの順序で現状把握から解決の手立てまでを考え、4分割した模造紙に書き出した。

- A 現状把握: 当事者はどんなことに困っているのか、どんなことを問題だと思っているか、不安に思っているか。リスト。
- B 影響を考える: 当事者の困り事を解決しなかったらどんなことが起きるのか。派生図。
- C 原因を考える: 原因なぜそれが起こっているのか。因果関係図。
- D 解決の手立て: ではこの問題を解決するために必要なことや役立つことは何かがあるか。リスト。



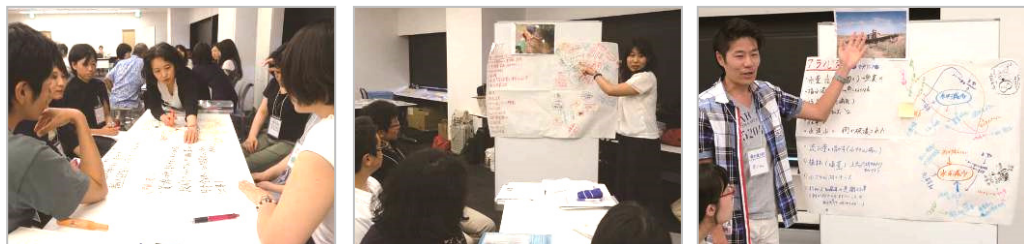
◇ 3分以内でプレゼンテーションできるようポイントをまとめ、グループで共通認識を作る。

◇ グループ内で1～7までの番号を振り、プレゼン用にグループ替えと机の配置換えを行った。

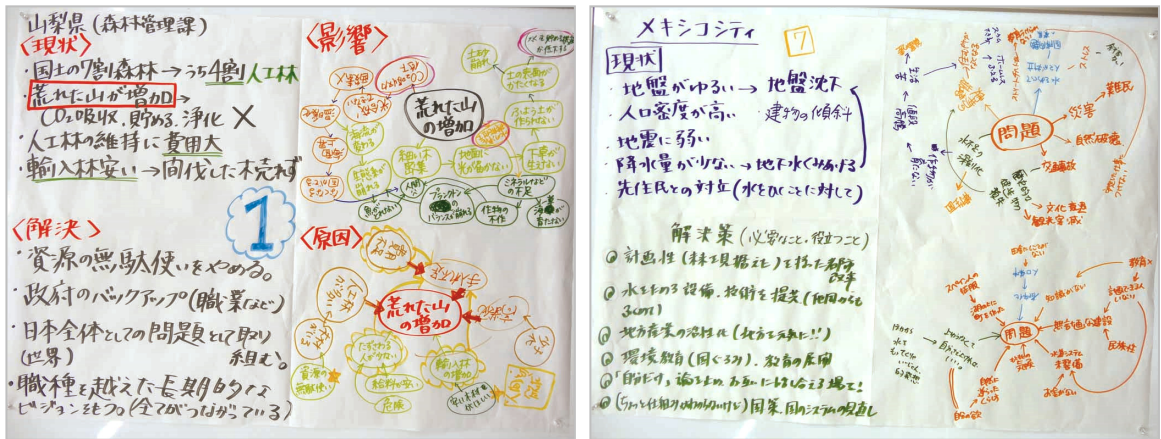
◇ サーキットプレゼン方式にて全体共有を行った。(1人2分間)

<サーキットプレゼン方式>

模造紙を可動式ボードに貼り、その模造紙を書いたメンバーがグループ内でプレゼンを行う。1人プレゼンが終わるごとにボードを隣のグループに移動し、都度その模造紙を書いたメンバーが同じようにプレゼンを行う。



【水問題の原因、影響、解決の手立ての成果例】



◇ 持続可能な水利用に向けて自分にできることを考え、グループ内で伝え合った。

出典：特定非営利活動法人 開発教育協会『日本と世界の水事情「水から広がる学び」』2013年

● セッション4 「持続可能な未来のための教育 価値観とスキルを育て行動変容を支える」 7/12 14:13-15:00

1. 持続可能な未来を築く ～役立つ価値観、育てたい力、必要な情報～ 14:13-[13]

◇ ESD の目標および行動変容のプロセスについて、以下の板書を基に、ファシリテーターが説明した。

<ESDの目標>

- ・ ESD では学習者の行動が変わることを目標にしている。人の行動を変えさせることはできないが、行動変容を支えることはできる。行動変容を作り出すために、参加型は、「知識」「気づき」「スキルトレーニング」がバランスよく入っている。
- ・ 行動変容を支えるためには価値観を育てることがポイント。人は持っている価値観によって行動している。価値観が変われば行動が変わる。

<行動変容のプロセス>

- ・ 知らないから、やらない
 - ↓ ← 知識情報の提供
- ・ 知っているけれど、やらない
 - ↓ ← 問題が自分事となるための気づきを提供 …参加者主体で考える、問いかける
- ・ 知っている・分かっているけれど、できない
 - ↓ ← スキルトレーニングの提供 …ノウハウではなくドウハウの提供と、書く・伝える・振り返るを繰り返して意識化していく
- ・ 知っている・分かっている、だからやる！できる！

◇ 人権、環境、平和が守られる持続可能な未来のために、また、その未来を築いていく人を育てるために、グループ内で次の3点を考え、模造紙に書き出した。

- ① どんな価値観を育てるとよいか
- ② どんなスキルが身につくと良いか
- ③ どんな情報提供が必要か



【持続可能な未来のために育てたい価値観・スキル・役立つ情報の成果】

① 価値観

- ◇ 豊かさの裏にある貧困を知る ◇ 命の平等性 ◇ 幸福量 ◇ 思いやること ◇ みんなが幸せに
- ◇ 自分さえよければという考え方ではなく、周りの人のことも考えられる ◇ 支え合い
- ◇ 違い、多様性を受け入れられる ◇ 違いを楽しむ ◇ 多様な見方ができる ◇ 認め合う ◇ 共感できる心
- ◇ 協調性 ◇ 自主性・自発性 ◇ 世界の一員 ◇ 全部のことがどこかでつながっている
- ◇ 自分の利益のみを求めない ◇ 他人事を自分事と考える ◇ 「知る」事に積極的になる
- ◇ 視野を広げ ◇ 自分の一歩が大きな変化につながる ◇ 不条理・不公平に対する意識
- ◇ 0.01%しか人間に使える水はない!! ◇ 資源は無限ではない ◇ 30年先を考える
- ◇ 世界の問題（地球規模）である ◇ 地球人である!! ◇ 流行に左右されない
- ◇ 値段だけで決めない ◇ 利便性ばかり考えない ◇ 豊かさとは…、物質的なものだけではなく心も大事!!

② スキル

- ◇ コミュニケーション能力、伝える力・聞く力 ◇ 考える ◇ 人の話を聞く ◇ 発言・行動力
- ◇ 関わり合いトレーニング ◇ 協力する力 ◇ ファシリテーション力 ◇ 多様性を認める力
- ◇ 周りに目を向ける ◇ (肯定的に) 受け入れる ◇ 自分を認める (自己肯定感UP) ◇ パディ
- ◇ 仲間を作る ◇ 自主性 ◇ 知的好奇心 ◇ 想像力 ◇ 自信をもつ ◇ 人のことを考えられる
- ◇ 自制心 ◇ あるもので何とかする力 ◇ 分析力 ◇ 親離れ子離れ ◇ ポジティブシンキング
- ◇ セルフイメージ高める ◇ ロールプレイング ◇ 未来を見通す力 ◇ 広い視野 ◇ 持続する力
- ◇ 情報収集力・検索能力 ◇ 冷静かつ公正な判断力「本当にこれで良いの？」 ◇ 情報の取捨選択
- ◇ いろんな情報を関連付ける ◇ よりよいものを選ぶ ◇ 特技を身につける ◇ 学習 ◇ 勇気
- ◇ めんどくさがらない ◇ 命に触れること ◇ 地球愛♡

③ 情報

- ◇ 変容後の姿を伝える ◇ 影響を考える ◇ 現状と課題 ◇ 他国の現状 ◇ 日本の現状
- ◇ 直接的な体験&コミュニケーションによる情報 ◇ その土地の歴史的・文化的背景を知る
- ◇ 成功例 ◇ 失敗例 ◇ 正しい情報 (企業利益のためでなく) ◇ 多面的な情報 (多角的な思考ができる)
- ◇ 客観的な情報 ◇ 確かな情報 ◇ 活動している実践の生きた情報 ◇ 自分のつながり
- ◇ 自分と関連させた情報 ◇ 不条理・不公平なニュース (写真・映像等視覚的な→グラフや数値の情報)
- ◇ 具体的データ ◇ 電気、水、食料など自分たちの生活のデータ化→比較 ◇ 地球大好き情報
- ◇ 専門知識 ◇ 情報の選択 (よいものを) ◇ 異文化交流→直接会う機会 ◇ 場で体感する
- ◇ コミュニティ・人のつながりを知る ◇ いろんな人の立場の意見を知る
- ◇ 同じ世代の生の声・現場の声 ◇ 成功体験 ◇ 失敗体験 ◇ 情報を発信する・OUTPUT
- ◇ 貴重なものであるということ ◇ 発達段階に応じたもの ◇ 気軽に話せる場
- ◇ 流れ (自分だけががんばらなくてもできる!!)

2. 全体ふりかえり 14:26-[6]

- ◇ 開発教育・国際理解教育の担い手として自分が何を大事にし、何をしていくかを、第2回の感想とともにグループ内で伝え合った。

3. JICA TIME 14:32-[24]

- ◇ JICA 中部 竹内次長より、JICA 事業概要について説明を行った。
(政府開発援助概観、国際協力出前講座について)

4. 事務連絡 14:56-[4]

- ◇ メーリングリストについて、第3回研修宿泊について、教師海外研修参加者ミーティングについて、事務局が伝えた。



★ 15:00 終了